

「リハ職指導者の養成スクールを開設」



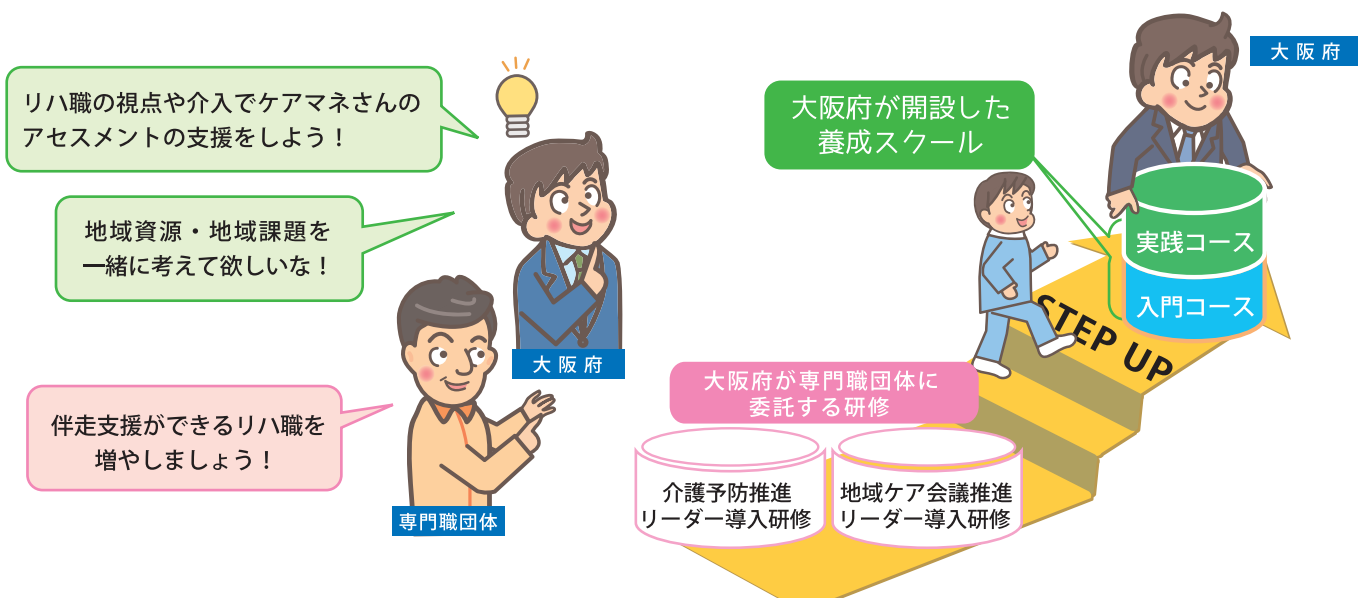
基本情報

管内人口：8,770,315 人（令和6年10月1日現在）／センター数：282 カ所（令和6年4月1日現在）／高齢化率：29.1％（令和5年10月1日現在）



大阪府

サービス・活動Cの重要性が認識されるなか、リハ職の同行訪問などによるアセスメント力の向上を目的とした「生活課題アセスメント訪問指導者養成スクール」を立ち上げた。さらに市区町村への“サービス・活動Cの普及展開”“生活環境の評価や課題の明確化”“地域資源の活用”“サービス・活動C”の立ち上げ支援にも繋がっている。



生活課題アセスメント訪問指導者養成スクール（大阪府が開設した養成スクール）

入門コース

- ①講義・演習
- ②実習・自己学習

内容

- ・地域支援事業について
- ・自立支援の理念について
- ・総合事業見学実習
- ・アセスメント訪問実践実習 など

実践コース

- ①重点支援市などへの派遣
- ②フォローアップ研修

内容

- 《アセスメント訪問実践》
- ・サービス・活動Cや通いの場への支援
- ・事例演習
- ・市区町村との連携・支援 など

養成スクールの様子



市区町村への伴走支援へ

同行訪問

市・センターへの助言

地域のリハ職の指導

市区町村へ支援に入ります！

リハ職（スクール卒業生）



つくるくんの感想

大阪府は、府・リハ専門職団体・市区町村・センターが協力して事業展開をしていく中で、この養成スクールを基軸に、地域の介護予防ケアマネジメントの質の向上につながっていく感じが感じ取れたぞ。今後は自立支援を構築する場が、地域ケア会議だけではなく、現場でケアマネさんとリハ職と一緒に課題整理をし、予防プランを考えることで、地域課題の解決につなげていきたいって言ってたなあ。

報告書 P176～

「リハ職がアセスメントの質向上に貢献」



基本情報

管内人口：54,095 人（令和6年4月1日現在）／センター数：3 カ所（直営0・委託3）／高齢化率：26.89％（令和6年4月1日現在）



リハ職（スクール卒業生）



四條畷市

大阪府の養成スクール（P14 参照）を卒業したリハ職が、ケアマネのアセスメント場面への同席や地域ケア会議への参加を通じて、リハ職によるアセスメントの視点や見通し、目標の明確化、課題解決に向けたサービスの選定を助言している。ICTシステムはアセスメントと予防プラン作成時に活用。入力したデータを蓄積し、地域分析に役立てている。



インテーク

最近、困っていることはありますか？

ケアマネ

最近、転びやすくて外に出るのが怖いのよ

転びやすくなった原因は何だろう？

アセスメント

《同行訪問》



改善の可能性を助言してもらえるから目標が立てやすいなあ。

リハ職同行訪問

できること・できないことについて身体機能の評価を行い、阻害要因や改善の可能性を確認することで、なりたい姿（目標）になれるかどうかを根拠を持って説明できる。

阻害要因

下肢・体幹筋力が低下していますね！

複数の阻害要因から選択

サービス選定・改善の見通し
サービス・活動Cでの下肢強化の運動で改善しそうです！

予防プラン作成



ICTの活用！

なりたい姿の明確化
元気になったら、本屋まで歩いて行きたいって話してたなあ。

ケアマネが利用者に合った内容に整理し予防プランに反映

利用者に合った内容を取捨選択し、目標を立てられる！

ICTを活用！

ケアプラン作成支援ソフトを活用することでアセスメントに求められる視点が可視化される。

『漏れの無い情報収集』&『思考の整理』

アセスメントの質の向上・平準化！



様々なアセスメント帳票

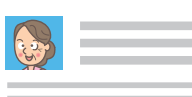
生活機能評価表

室内歩行 伝い歩き

工程分析

工程	阻害要因
①	下肢筋力の低下
②	体幹筋の低下

予防プラン



アセスメント内容が自動反映され、予防プランが作成しやすくなった！



つくるくんの感想

リハ職の関与に加えてICTも活用することで、アセスメントが可視化され、リハ職と他の職種、さらに利用者が共通認識できるツールとなり、リハ職の助言内容の理解にも役立っているんだね。また、センター職員だけの視点ではなく、リハ職によるアセスメントの視点を加えることで、さらなる介護予防ケアマネジメントの質の向上にもつながっているんだ。

報告書 P179～